

通信手段に光をさす。



ケーブルがないことで動きやすく、会話しながら安心してダイビングが楽しめるので、特に初心者に向いているというi-Majun。また、船上との会話も可能なので、素早い救助などにも役立てられます。



音波や超音波を使ったこれまでの水中無線技術とi-Majunの大きな違いは潮流や泡の影響を受けにくいこと。お互いにライトを向け合せて光を送受信することで相手の声を骨伝導スピーカーで聞くことができます。透明度の高い海(慶良間諸島)での通信距離は約30mの実績を持っています(濁った水中では通信距離が短くなります)。



沖繩の未来を担う
人づくり・モノづくりを紹介します。



(右から) 基本的に水中ライトとして使用するので、水中通信機器という特別な装備感がないというi-Majun。(中) 2015年からサービスを開始したSPA事業ではLED通信技術を水中ヨガに利用しています。(左) 産業まつりで行われた水中会話体験。



ダイビングに新たな楽しみと感動。 LED 技術で水中の会話が可能に。

[株式会社マリンコムズ琉球]



世界唯一の技術で
より感動的な海中体験を

青い海に広がるサンゴ礁、その周りを乱舞するように泳ぐ色とりどりの熱帯魚たち。2014年には慶良間諸島の海域が国立公園に指定されるなど世界有数の美しさを誇る沖縄の海はダイバーの憧れです。

宜野湾市にある株式会社マリンコムズ琉球では、沖縄でのダイビングをさらに楽しく、そして安全・安心・快適なものにするためにLEDの光を使って、水中で会話することができ、水中可視光通信機器を開発しました。「i-Majun」と名付けられた機器は、ダイバーの音声をLEDの光に乗せて送受信し音声を再生するもので、最大で約30m離れた海中での会話が可能。さらに海中で機器を守るための水中防水や耐圧技術も独自で開発するなど細部に至るまで高度な



■i-Majunの仕様
 ・最大通信距離 30m / 最大深度 30m
 ・LED 疑似白色 (3W×9個) / 明るさ 1,500ルーメン
 ・通信チャンネル 2チャンネル / 連続使用時間 約4時間
 ・電源 専用リチウムイオン電池 ※陸上での使用不可

技術が詰め込まれています。大手メーカーを驚かせたという世界唯一の技術はレジャーダイビングのみならず、水族館や、海洋土木、海洋での救難救助などの現場からも問い合わせがあり、それぞれの事業に応じた技術開発にも積極的に携わっています。

年間600万人の観光客が訪れる沖縄。そのなかでダイビングを楽しむのは1割程度だといわれています。マリンコムズ琉球では水中で話せることで安心感をもたらし、楽しさを共有できるi-Majunで、ダイビングをさらに普及させ沖縄の観光業に役立ちたいと考えています。さらに、世界に誇るLED通信技術で海の安全、快適に貢献することを目指しています。



お話を伺った株式会社マリンコムズ琉球 代表取締役 新川直正さん

株式会社 マリンコムズ琉球
 沖縄県宜野湾市嘉数1-15-5
 098-870-2561

